

第7回共生塾 「貧困に立ち向かうネットワーク」を開催しました！

今回の福祉フォーラム第7回共生塾は、現代の貧困に立ち向うため反貧困ネットワークの運動を展開している最前線から問題提起することをねらいとしました。

貧困問題は所得の不平等だけでなく、さまざまな生活問題を引き起こします。貧困は次世代へと連鎖し、再生産を繰り返します。社会的立場の弱い人、困難な状況に置かれている人ほど、貧困の影響は大きく、世代間連鎖を生むことがあります。母子世帯や若年単身女性に広がる女性の貧困、所得の減少が直接影響する住まいの貧困、世帯の貧困がそのまま表れる子供の貧困を取り上げることによって、現代社会の抱える貧困問題についてその実態を浮き彫りにし、問題に立ち向かう意義を共に考える機会としました。

貧困による生活困難を解決するには、所得保障だけではなく、様々な問題を組み合わせるよう解決していかなければなりません。そこには、ネットワークや協働の取り組みが必要です。弁護士、司法書士、ケースワーカー、当事者、いろいろな領域の福祉専門職がネットワークを構成し、社会にむけて発信し、政策にアプローチし、具体的な施策に結びつけていこうとする運動が反貧困ネットワークの取り組みです。

2010年6月20日(日) テーマ「女性の貧困」

報告者 田中 聡子 氏(県立広島大学保健福祉学部講師)
中野 冬美 氏(女性のための街かど相談室 ここ・からサロン 共同代表)
山本 八重子 氏(特定非営利活動法人いくの学園 運営委員・相談員)
コーディネーター 大友 信勝(龍谷大学社会学部教授)



今日の貧困問題に対し、「民主主義の立場から我々は何をなすべきか」という、大友教授の力強い問題提起から、共生塾初回はスタートしました。

現実に「女性の貧困」と向き合っている各講師の言葉は、真摯で、貧困女性に対する世の中の無理解・偏見を打破したいという熱意にあふれていました。

田中氏からは、具体的なデータに基づき貧困女性の現状についての報告がありました。日常的な貧困に、失業・疾病等の困難が重なって初めて表面化する女性の貧困は、見えにくく支援が非常に困難であることが提示されました。中野氏からは、女性の貧困の典型としての母子家庭の貧困について、社会制度の不備も含めてその厳しい現状が語られました。山本氏からは、DV被害にあい心身ともに痛めつけられた女性を支える重要性和、暴力のもつ非合理性、女性の置かれる困難な実情について示されました。

質疑の際に講師が発した「困難にあっても頑張っている女性をとにかく認め、支えて行くことが大切。どのように励ましながら、その人の生きていく力を付けることができるか。」という言葉が、強く心に響きました。

2010年6月26日(土) テーマ「居住と貧困」

報告者 今村 雅夫 氏(全国公的扶助研究会 事務局次長)
舟木 浩 氏(弁護士)
益子 千枝 氏(よりそいネット・おおさか相談員)
コーディネーター 大友 信勝(龍谷大学社会学部教授)



益子氏が「よりそいネット・おおさか」の沿革と活動内容を報告しました。「よりそいネット・おおさか」は、福祉の支援を必要とする矯正施設などを退所した人々の自立支援おおさかネットワークです。益子氏によると、「近年、社会に居場所をなくした障がい者や高齢者による犯罪、再犯が社会問題となっている。しかし、矯正施設などからの出所者への受け皿は行き届いておらず、中途半端に投げ出された状態になっている。」次に、今村氏が、住居を喪失中の人・そのおそれのある人からの相談事例の原因・背景・特徴などを報告しました。利用可能な自立支援センターがないことから、犯罪歴のある人の場合、相談対応に苦慮せざるを得ない場合が少なくないといえます。最後に舟木氏は貧困ビジネスの現状を報告しました。貧困ビジネスとは、貧困層を対象としたビジネスのことであり、それはさまざまな分野に及んでいるが、住宅(宿泊所)にからむケースが多い。社会的弱者につけこむ貧困ビジネスは公的援助・福祉制度の不備から生じているとし、ホームレスの状態に陥らない制度の構築が必要である、と話しました。

2010年7月4日(日) テーマ「こどもの貧困」

報告者 角田 純一郎 氏(全教滋賀教職員組合)
永芳 明 氏(弁護士)
吉田 雄大 氏(弁護士)
コーディネーター 田中 聡子 氏(県立広島大学保健福祉学部講師)



永芳氏から、滋賀県内のクレジット・サラ金被害者の会「びわ湖あおぞら会」が中心となって、2008年10月に「反貧困ネットワーク滋賀」が結成された経緯が話されました。その目的は、さまざまな貧困問題について教職員や弁護士会など諸団体が連携して調査・解決にあたることにあり、派遣切り等の問題に関する電話相談やホームレス実態調査を実施しています。今年の1月に、教育費を十分に賄えない家庭の児童のための学用品リユース運動を始めたことは、新聞各紙でも紹介されました。

角田氏は、教育現場から見える子どもの貧困をご自身の体験と子どもの声を交えて語られました。教職員組合が行った「子どもの貧困アンケート」と「子どもSafety-Net」の立ち上げの背景に、滋賀県下で顕著だった雇い止めや雇用の不安定化があることをあげ、貧困の実態とともに、貧困が子どもと家庭に及ぼす影響を具体的に話されました。

吉田氏は、2008年に児童相談所や学校、医療機関、ケースワーカー、保育所、弁護士、研究者などで始まった「京都子どもネット」が、子どもの貧困シンポジウムの開催を通してまとめた「子どもの権利手帳」の主旨と内容を紹介されました。手帳は、国連の子どもの権利条約をふまえ、「いのち、そだち、まなび」をテーマとして、誰にもわかりやすく書かれており、インターネットで無料配布できるとのことでした。

休憩後は、フロアーから、事例のとりあげかたへの疑問や、貧困を生きてきた子どもの力への視点、しかし極貧によって潜在能力がそがれていくこともあることなど、深い意見交換がなされて、耳を傾け合う環境づくりの大切さが喚起される集会となりました。

第5回専門セミナー「子どもたちに豊かな学童期を保障するために～学童期に関わる専門職のための学びと交流～」を開催しました！

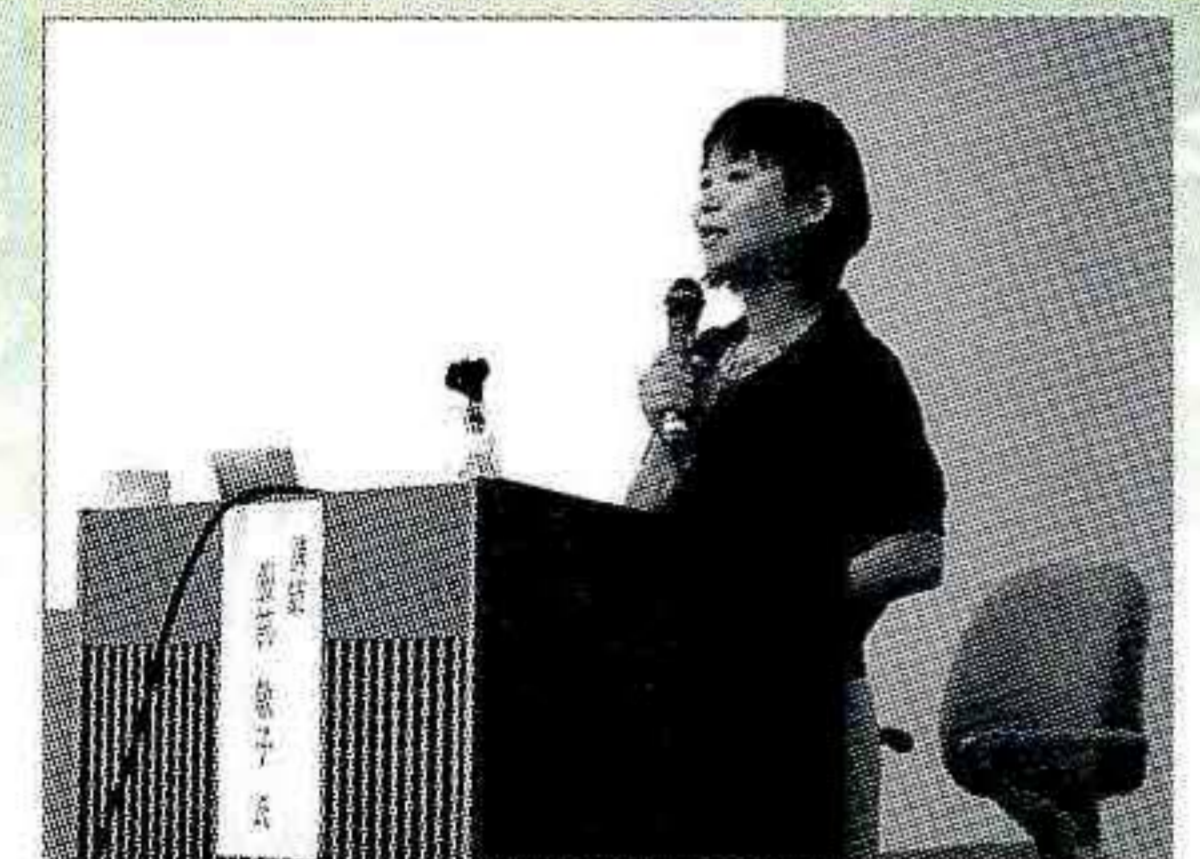
今回の専門セミナーは、「子どもたちに豊かな学童期を保障するために」というテーマのもと、学童期の子どもたちと関わる専門職のための学びと交流を目的として、3回シリーズで開催しました。

2010年6月19日【土】

第1講：「学童期の発達と障がいー幼児期からの移行を確かなものに」

講師 服部 敬子氏（京都府立大学公共政策学部准教授）

学童期に、発達の遅れや集団適応上での課題が顕在化する子どもの指導を考えるために、幼児期から学童期にかけての子どもの発達の特徴について講義を受けました。子どもの発達は右上がり一直線ではなく、ボン、とジャンプする段階、ジャンプの前に「力をため込む」、階段の踊り場のような一見停滞している段階があります。服部氏は、豊富な視覚教材を提示しながら、発達のつまづきが、ジャンプする箇所で顕在化することが多いこと、つまづきを乗り越えるために、力をため込むことの必要性について解説されました。質疑の時間には、主に学童保育の現場にいる受講生等から、現実に対応に苦慮されている子どもへの対応について、活発な質疑がなされました。



2010年7月4日【日】

第2講：「子どもの遊びの展開と指導」

講師 黄地 千早氏（晴嵐学童クラブ指導員）

山本 陽子氏（長等学童クラブ指導員）

コーディネーター 山田 容（龍谷大学社会学部准教授）

講義では、主に発達障がいをもつ子どもの遊びの指導の実践について、黄地、山本両氏からの報告がありました。報告事例と同様に参加者が実際に紙で作った「剣」を使い、子ども集団でのルールや指導のポイントについて考察するなど、実践場面に即した講義が展開されました。

後半は、演習として、参加者がグループに分かれ、学童期を対象にした自然物を用いた制作を行いました。まずは、大学周辺の林等で自然の素材を収集し、それぞれのテーマに従った制作・発表を行い、参加者のお互いのアイデアを交換することができました。自然物収集の際には、全員が風呂敷でマントやターバンなどの衣装をした「あやしい」一団となる等、大人自身が楽しむことの大切さについても実感できる演習でした。



2010年7月18日【日】

第3講：「子どもの発達への苦しみに心をよせてー講義と実践の交流」

講師 白石 正久（龍谷大学社会学部教授）

最終講は、講義だけでなく、発達障がいをもつ子どもと向き合う実践者の交流を視野に入れた展開となりました。

講義では、発達期の子どもが避けがたく抱える矛盾について語られました。子どもは、本質的に「大きくなりた」「良くなりた」と願いをもちつつ、社会や環境、発達そのもののもつ矛盾から苦しんでいること、そしてその子どもに大人がしっかりと寄り添っていくことの大切さについて、講師の臨床経験や社会への深い洞察に基づいて語られました。後半は、それぞれの実践上の悩みを心よせる場として、参加者の質問や相談について共有し、考察する場がもたれました。発達に遅れをもつ子どもの支援に長年取り組んでいる講師の温かい視点と語り口が印象的でした。



共生塾 参加者の感想

- 現場でおきている現実と、求められている支援の方向性について考える良い機会となりました。今後の参考にさせていただきます。
- ホームレスの人々、貧困ビジネス等々について、現状を知ると共に、今後どうしていかなければならないのか、考えるきっかけとなりました。様々な課題があり、すぐに解決できるものではないと思うけれど、少しずつでも改善されていって欲しいです。
- ホームレス問題、貧困ビジネス等、深く教えられました。もっともっと心が通い合う様な、施策が必要だと考えました。市民活動に、組み込んでゆきたいと思いました。
- 子どもの貧困についての活動を知る事が出来ました。貧困に立ち向かうネットワークの一員として、活動していきたいと思えます。
- 3回にわたるフォーラムに参加させて頂いて、様々な側面から貧困について学ぶことが出来ました。今まで私が持っていなかった視点から捉えられたり、深く考えられる機会となりました。

専門セミナー 参加者の感想

- とても分かりやすく、楽しく学ぶことが出来ました。子どもの声から、子どもの気持ち・心を読み取り、返す力の大切さ、保育でもっと磨いていかなければならないと思いました。子どもの力、考える力を知り、活かしていきたいなと思います。
- 初めての参加でしたが、とても興味深い内容でした。具体的に子どもの姿もお話に入れて下さるので、発達段階に対するイメージが持ちやすかったです。子どもたち一人一人が今どの段階にいるのかを理解し、大人側の姿勢を調整していく大切さやおもしろさを学ぶ事ができました。
- 演習があつてとても楽しかったです。実際に見て、考えることによって得られるものが多いことが分かりました。また、講義も実例からお話していただいたので、とても理解しやすかったです。
- 冒険の旅から始まった自然の中にあつたものから発想しながら”もの”を作る事は、簡単そうで難しいものでした。子どもたちの発想に驚き共感しながら、今後も楽しんでいけたらいいな、と思いました。
- 実際に働いていらっしゃる指導員の方からの声は、とてもリアルに届いてきました。子どもの葛藤と共に、職員の方も日々葛藤しながら、試行錯誤を繰り返しながら働いていらっしゃることを知り、とても良い機会になりました。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL/077-543-7744 FAX/077-543-7771

E-mail/r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ/http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/